

芝生の管理ポイント・・・通気・更新作業

1. はじめに

当社には、酪農畜産事業・畑作園芸事業の他に環境保全や環境緑化に取り組んでいる環境緑化事業があります。

環境緑化事業では、芝生・緑化用種子・資材の取り扱いの他、芝生の管理についての情報発信もなっています。ここでは、継続して使用された芝生が種々の原因でその状態が悪化し、荒廃した場合について、このうち土壌固結、サッチの堆積、排水不良等に起因して薄くなった芝生土壌の働きを回復させ、芝生の若返りをはかる方法についてご紹介します。

2. 芝地の悪化の誘因と主な障害

① 土壌の固結

(固結が最もはげしいのは地表から2～5cmの範囲)

誘 因：人間や機械による荷重によって芝生の土壌が固結する。

主な障害：根の生育が衰退し芝生が薄くなる。通気・透水が悪化する。肥料、種子が流亡しやすくなる。土壌中の酸素が減り、炭酸ガスの濃度が高くなり、根の生理機能が低下し、徐々に衰退する。

② サッチまたはマットの蓄積

(芝生の地際に枯れた葉や古い根等が分解しないまま蓄積しスポンジ状を呈する)

誘 因：窒素肥料の過剰施用。過度の散水。

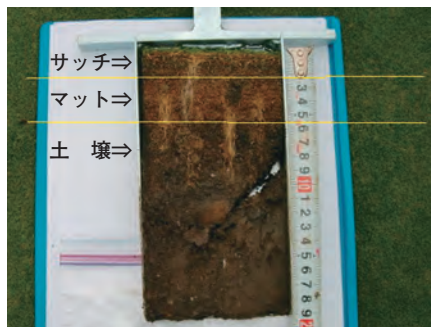


写真1 サッチ及びマットが過剰に蓄積した芝生断面

目土をしない。刈屑を除去しない。エアレーションをしない。排水不良土壌や酸性土壌。刈込が不定期等。

主な障害：吸湿性が高くなる。透水性・通気性を阻害する。耐乾性が低下する。病害虫の巣になる。肥料・薬剤の浸透が悪くなる。ミミズの発生が増える。

3. 通気・更新の必要性

芝地が荒廃して薄くなった芝生の土壌の働きを回復させ、芝生の若返りを図る必要があります。土壌固結の緩和、過剰サッチの除去・分解促進の為に土壌を膨軟にしたり、穴をあけたりすることで芝生の活力を取り戻し、健康状態の改善効果を期待できます。通気・更新作業は、定期的かつ長期的な計画が必用であり、決して短期的な改善を望んではいけません。コアリング、スライシング、サッチング、スパイクング等の更新作業（エアレーション）でサッチやマットが減少し、通気性が改善されます。目土（砂）はサッチ分解の促進とマット化の防止、土壌改良の効果が期待できます。

4. おわりに

当社は芝生の優良品種開発と導入に関わりながら、芝生管理作業に少しでもお役に立てる様、今後もより良い芝生・緑化用優良種子や資材の提供、情報の発信に取り組んでいきます。



写真2 機械によるコアリング作業の一例